



# 2019(平成 31)年度事業計画書

自 2019 年 4 月 1 日

至 2020 年 3 月 31 日

学校法人多摩美術大学

## 目 次

はじめに	1
1. 中長期的な基本計画	1
(1) 教育及び研究体制の整備と再点検	
(2) 学生受け入れ態勢の強化	
(3) 国際的な美術家、デザイナー、教育者育成のための環境整備	
(4) 国際交流の推進・制度化	
(5) 専門性と総合性の融合を目指した教育改革	
(6) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備	
(7) 管理運営の強化	
2. 2019（平成31）年度事業計画の概要	2
(1) 教育及び研究体制の整備と再点検	2
1. 教育課程、教育内容、教育方法等の改善	
2. 大学基準協会認証評価（2015年度申請）結果の対応	
3. 三つのポリシーに基づく PDCA サイクルの推進	
4. 研究成果発表の充実	
(2) 学生受け入れ態勢の強化	4
1. 推薦入学試験の実施	
2. オープンキャンパス・進学相談会等の取り組み	
3. 学生支援	
(3) 国際的な美術家、デザイナー、教育者育成のための環境整備	5
1. 新たな交換留学実施のための海外協定校拡充	
2. 2019年度交換留学制度（派遣・受入）	
(4) 国際交流の推進・制度化	6
1. 海外大学との連携	
2. 国際協働教育プロジェクト「Pacific Rim」	
3. 国際交流プロジェクト「Connecting Wool」	
4. 海外留学の促進	
5. 学内の国際化	
6. 地域のグローバル化対応に貢献	
7. 外国人留学生への就職支援	
8. Web サイトにおける情報提供	
(5) 専門性と総合性の融合を目指した教育改革	8

(6) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備	8
1. 上野毛キャンパス整備	
2. 八王子キャンパス整備	
(7) 管理運営の強化	9
1. 人事管理・労務管理	
2. 人材育成 ー職員の資質・能力向上ー	
3. 法改正及び危機管理対応	
4. 財政基盤の強化	
<b>3. 2019（平成31）年度事務部門の計画（骨子）</b>	<b>10</b>
(1) 教育・研究運営面の推進計画	10
教務部 [教務課] [入試課] [国際交流センター] [研究支援課]	
学生部 [学生課] [キャリアセンター]	
附属図書館	
附属美術館	
附属メディアセンター	
附属アートアーカイヴセンター	
生涯学習センター	
芸術人類学研究所 (IAA)	
(2) 管理運営面の推進計画	16
総合企画部 [企画課] [広報課]	
総務部 [総務課] [八王子総務課] [経理課] [情報推進課]	

## 2019（平成31）年度事業計画

### はじめに

本学の淵源は、1935（昭和10）年9月開設の多摩帝国美術学校にある。同校は、北吟吉、杉浦非水、井上忻治、牧野虎雄らが中心となって、官立の美術学校にはない「自由なる精神」が生み出す美術の根源を求めて、東京府（現在の東京都）東京市世田谷区上野毛の地に創設された。以来84年「自由と意力」の理念の下、常に芸術の先端的な動向を切り拓き我が国の芸術文化の進展に寄与してきたのである。専門分野における高度な学理や技能のみならず、国際的な視野と幅広い教養をも身につけた人材の育成に努め、社会に新たな息吹をもたらす優れた芸術家・デザイナー並びに教育者・研究者を数多く輩出してきたことは、本学の誇りとするところである。これまでの卒業生は全課程合わせて4万2千7百有余人に及んでいる。

### 1. 中長期的な基本計画

近年、社会に対して大学が担うべき役割は大きく変化してきている。グローバリズムの波が押し寄せる一方では、地域への貢献が強く期待されており、またAIの飛躍的な進展によって産業構造も流動化しつつある。芸術系大学である本学も当然ながらそうした状況に柔軟かつ大胆に対応していかなければならない。長い伝統の中で培われてきた安定した基盤を踏まえ、芸術の王道を行くという矜持を保ちつつ、新たな時代を先導的に切り開いていく人材を育成するという大いなる使命を果たすべく、決意を新たにしているところである。

本学では建学以来「自由と意力」をモットーに掲げてきたが、それを踏まえた具体的な教育方針としてはディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）、アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）という三つのポリシーを定め、多様化し複雑化する現代社会のなかで、芸術に立脚し、能動的に未来を切り拓くことのできる人材を養成することを、その使命であると考えている。長期的な事業計画もそれらに基づいて作成されているが、従来以上に重視されているのは、型にはまった職業観のみに拘束されることのない多様な人材を送り出すために様々な領域をまたぐプログラムを導入し、また入試においても複線化を推し進めて多様な資質を評価しようとしていることである。

アドミッション・ポリシー改革の手始めとして2016年11月に全学科において推薦入試を実施し、今年2月には学力を重視した入学試験（センターⅡ）を5学科に増やして、表現者としてオリジナリティ溢れる創造力・発想力・表現力・企画力・応用力・柔軟性等を

備えた意欲ある多様な入学生を迎えたところから起動した。

さらに学長のリーダーシップのもとに、2018年から附属アートアーカイブセンターを立ち上げ「創造のためのアーカイブ」を標榜する学内横断的な研究組織で、関連資料を集積するばかりではなく、その成果を積極的にWeb、出版、シンポジウム、展覧会などで発信しようとするもので、学内の研究、教育、創作活動を活性化させると共に学外との交流拠点となる活動を開始した。

2019年度の事業計画策定にあたり、その前提となる中長期の基本計画は以下の通りである。

- (1) 教育及び研究体制の整備と再点検
- (2) 学生受け入れ態勢の強化
- (3) 国際的な美術家、デザイナー、教育者育成のための環境整備
- (4) 国際交流の推進・制度化
- (5) 専門性と総合性の融合を目指した教育改革
- (6) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備
- (7) 管理運営の強化

## 2. 2019（平成31）年度事業計画の概要

中長期の基本計画に基づき策定された事業計画の概要は次の通りである。

### **(1) 教育及び研究体制の整備と再点検**

#### **1. 教育課程、教育内容、教育方法等の改善**

##### ①教育課程の体系化：

カリキュラム、シラバス、時間割、出校表等の点検により教育課程を体系的に整備し授業と学事の円滑な実施に努める。

##### ②カリキュラム改革への取り組み：

2015年度に改訂した教養教育カリキュラム設計書に基づく、共通教育時間割のゾーン・ルール化やシェイプアップ化などの改革を進め、本学に相応しいキャリア教育を実践する。

##### ③美術研究科博士前期（修士）課程における2018年度新設課程の計画履行：

デザイン専攻・統合デザイン領域及び演劇舞踊専攻の設置趣旨、目的に沿った教育研究活動計画を完全履行する。

##### ④産学官連携、地域連携、高大連携、大学間連携：

全国芸術大学系コンソーシアム、大学コンソーシアム八王子、相模原・町田大学地域コンソーシアム、学校法人昭和大学などとの連携協働を通じて様々な組織や地域と芸術文化の振興、事業展開による芸術実践活動や人材育成を推進する。

##### ⑤多様化する学生への対応：

適切、親密な履修相談等を通じて欠席過多学生やケアを必要とする学生への修学支援を推進する。

## 2. 大学基準協会認証評価（2015年度申請）結果の対応

2018年度に継続して以下の課題解決に取り組む。

### 【教員・教員組織】

#### ①教育課程の編成・実施方針、FD活動：

美術研究科の教育課程の編成・実施方針は課程ごとに定める。

美術学部の教育課程の編成・実施方針は、内容を見直しWebサイトで公表する。

授業改善の他、教員の資質向上のためのFD活動として研修会や講演会などを継続実施する。

### 【教育内容・方法・成果】

#### ②教育課程・教育内容：

美術研究科博士後期課程は課程制大学院制度の趣旨に照らして改善し同課程に相応しい教育内容を提供する。

#### ③教育方法：

年間履修登録可能単位数の上限設定を目指す。

美術研究科の博士前期課程における研究指導や学位論文作成指導を研究指導計画に基づいて確実に行う。

#### ④成果：

「課程博士」の取り扱いを見直すとともに課程制大学院制度の趣旨に留意して修業年限内の学位授与を促進させる。

美術研究科博士前期課程および博士後期課程において学位論文や作品の審査基準を「履修案内」等に明記する。

### 【内部質保証】

#### ⑤自己点検・評価：

全学的なPDCAサイクルを機能させるため学内改革・大学評価申請本部の設置、構成メンバー、審議事項、自己点検・評価の周期等を定め、内部質保証についての恒常的な組織体制が機能するよう改善する。

## 3. 三つのポリシーに基づくPDCAサイクルの推進

再整備された三つのポリシー〈ディプロマ[卒業認定]、カリキュラム[教育課程編成]、アドミッション[入学者受入れ]〉に基づく改革の実施、取組みの評価、改善を行うPDCAサイクルを推進する。

## 4. 研究成果発表の充実

#### ①アートテーク：

ギャラリースペースやアーカイヴ研究、各種コレクション収蔵、自由デッサン室、

大学院博士後期課程アトリエ、メモリアルルームなどで構成される知と創造の芸術的複合施設の利用による各種研究成果発表の充実向上を進める。

②各棟ギャラリー：

各棟所在のギャラリー運営を各研究室へ移管する事で可能になった、適宜効果的な教育研究成果の発表を実施する。

## (2) 学生受け入れ態勢の強化

### 1. 推薦入学試験の実施

本学も激しい変化にさらされた社会環境にあつて、文化芸術のさまざまな局面で活躍し得る人材を育成することを重要なミッションとして掲げてきた。

全学的に導入した推薦入試はその意図を、先へと進めるもので一般入試には無い面接試験などを通して各分野で望まれる資質、学びへの積極的な意欲、将来への明確な姿勢などが総合的に試された結果、表現者としてオリジナリティに溢れた多様な入学生を迎えてきた。

3年目を迎えた各学科における推薦入学試験選抜方針と高等学校等で学習や経験してほしい事を志願者に伝えることで出願動向も安定し募集人員176名に対し2.5倍を超える446人と十分な志願者数を得ている。

2020年度に向けても更に完成度の高い推薦入学試験を目指す。

### 2. オープンキャンパス・進学相談会等の取り組み

2019年度美術学部の一般入試の出願者数は6,248人で昨年度に比べ79人減、率にして1.2%の減少であった。

要因として一般入試に先立って実施される推薦入試や特別入試(外国人留学生、帰国生)への志願者分散が挙げられる。

昨年7月～8月に開催されたオープンキャンパスと地方進学相談会の来場者数は16,299名と前年比1,536名増加し、引き続き本学への関心の高さが表れた。

今年度もオープンキャンパスと進学相談会を同時開催して来場者に本学の教育研究施設や本学学生の元気と熱意を体感してもらう機会とする。

さらに11月開催の芸術祭でも進学相談会を開き適宜適切な情報提供を行う。

また高等学校教員が開く各種大会や協議会、研究会とも繋がり強化を図って本学の活動状況や取組みを良く知ってもらう機会とする。

### 3. 学生支援

①学生生活調査の結果を活用した学生支援体制の構築を図る。

②八王子キャンパス南側、隣接所有地に学生寮(竣工2020年11月予定)建築を推進する。

③2015年から本学学生の受け入れが始まった優先寮への入居者を更に拡大する。

### 【優先寮の概要】

施設名 ディアコニア橋本（株式会社共立メンテナンス運営）  
所在地 相模原市緑区橋本 6-6-10  
八王子キャンパスから約 2km（橋本駅から徒歩 5 分）  
構造等 2003 年 3 月竣工、RC 造 6 階建、全 137 室うち 115 室

④奨学金制度及び授業料減免制度による奨学事業は以下の通り。

### 【奨学金】

創立 80 周年記念	学内成績最優秀者	34 名	各 30 万円給付
学業成績優秀者	学内成績優秀者	170 名	各 20 万円給付
特別優秀顕彰	学内外の活動等	29 名	各 10 万円給付
研究活動奨励	博士後期課程在学者		各 40 万円給付
ワークスタディ	校務一定時間計画従事者		各 24 万円給付
交換留学生	本学から海外協定校へ留学		各 20 万円給付
大学院学修奨励制度	博士前期・後期課程在学者		各 10 万円給付

### 【授業料・学費減免】

緊急支援	家計支持者の死亡・後遺障がい等	授業料の 50%減免
経済的支援	経済的困難者	授業料の 20%減免
兄弟姉妹	正規課程に同時に在籍する場合	授業料の 20%減免
博士前期課程	JASSO 奨学金採用者	授業料の 20%減免
私費外国人留学生	成績・仕送り額基準あり	(上限) 授業料の 20%減免
西日本豪雨・北海道胆振東部地震	当該災害被災者	学費の 50%~100%減免

これ以外に団体や個人からの寄付金が原資となっている奨学金が複数ある。

これらの制度による奨学事業費は総額 2 億円余となり学生支援が一層拡充する。

⑤2020 年度から国が実施する「高等教育無償化の制度」に向けて支援対象機関としての要件整備を進める。

## (3) 国際的な美術家、デザイナー、教育者育成のための環境整備

### 1. 新たな交換留学実施のための海外協定校拡充

海外大学協定校は現在 15 地域 24 大学でこの内 21 大学と交換留学協定を結び、2018 年度中に交換留学生として学生を派遣したのは 11 大学 17 名、協定校から受入れた留学生は 17 大学 38 名である。

海外へ赴く学生や海外から受入れる留学生を通じて、本学学生・教職員のグローバル感覚が涵養されることから海外協定校の拡充を進める。

### 2. 2019 年度交換留学制度（派遣・受入）

交換留学により協定校との連携を深め、双方の交流を図りグローバルな人材育成を目指す。



- 交換留学生<派遣> 11 大学合計 14 名の学生が推薦されている。
  - ベルリン芸術大学（ドイツ）3名
  - 中央美術学院（中国）2名
  - アアルト大学（フィンランド）1名
  - ヨーテボリ大学（スウェーデン）1名
  - ヘリット・リートフェルト・アカデミー（オランダ）1名
  - ロードアイランド・スクール・オブ・デザイン（アメリカ）1名
  - ローザンヌ美術大学（スイス）1名
  - グラスゴー美術学校（イギリス）1名
  - チェルシー・カレッジ・オブ・アーツ（イギリス）1名
  - 国立高等装飾美術学校（フランス）1名
  - シラパコーン大学（タイ）1名
- 交換留学生<受入> 8 大学合計 11 名が確定している。
  - ベルリン芸術大学（ドイツ）3名
  - ヨーテボリ大学（スウェーデン）2名
  - ロードアイランド・スクール・オブ・デザイン（アメリカ）1名
  - 中央美術学院（中国）1名
  - シラパコーン大学（タイ）1名
  - 国立台北芸術大学（台湾）1名
  - 弘益大学校（韓国）1名
  - ソウル大学校（韓国）1名

#### (4) 国際交流の推進・制度化

##### 1. 海外大学との連携

国や地域のバランスを考えつつ現在の協定校を 24 校から 25 校へ増加させる。  
海外協定校との交換留学に止まらず共同授業・ワークショップを実施する。

##### 2. 国際協働教育プロジェクト「Pacific Rim」

1981 年度にアートセンター・カレッジ・オブ・デザイン（アメリカ）が実施した研修会に本学学生が参加してから 25 年間に亘り継続されたアートセンターとの交流は、2006 年度から環境保護や自然災害など時勢に沿った社会問題等をテーマとして、両国学生が協働して行う学際的協働研究授業「Pacific Rim」プロジェクトに形を進化させ現在に至っている。

このプロジェクトに参加する学生は隔年毎に相互の大学を訪れて、国際社会に貢献できる多様性・幅広い教養・専門性・実践力を習得することを目指している。今年度は 9 月～12 月に両大学学生各 10 名による「Undercover Street Culture : LA×Tokyo : Eat・Shop・Play」をテーマとしたアメリカステージが開催される。

このプロジェクトは独立行政法人日本学生支援機構が行う 2019 年度海外留学支援制度（協定派遣）「学生交流創成タイプ(A)」に採択されたことによる奨学金で参加学生の経済的負担が軽減される。

### 3. 国際交流プロジェクト「Connecting Wool」

ノルウェー教育国際協力センター（SIU）の助成による国際交流プロジェクト「Connecting Wool」の一環として、「ノルウェーに生息する羊の固有種ワイルドシープ」の素材活用法をテーマに 2018 年 10 月にノルウェーで、また 2019 年 3 月には日本で、オスロ国立芸術大学学生と本学学生の間で共同ワークショップ（Joint Studio 1&2）が開催された。

今年度も 2019 年 10 月と 2020 年 3 月にそれぞれの国において共同ワークショップ（Joint Studio 3&4）の実施が計画されている。

また、本プロジェクトには両大学の学生が関連企業での「ワークプレースメント（就労体験型学生派遣）」に参加することも組まれている。

### 4. 海外留学の促進

海外協定校との交換留学プログラムに係る派遣時期・期間の見直しや派遣学生への奨学金支給など、学生が参加しやすい環境を整え年間 20 名の派遣を目指す。

### 5. 学内の国際化

学生同士のグローバルな交流を活発にするため受入れ外国人留学生数 500 名を目指す。

日本語が苦手な海外協定校からの交換留学生に対し、英語対応可能な科目を拡充しつつ、基礎的な日本語能力が身につく機会を提供する。

### 6. 地域のグローバル化対応に貢献

多摩地区の中学校との連携とともに地域のグローバル化対応を支援する。

外国人留学生の地域行事への参加を通じて住民との交流を図る。

### 7. 外国人留学生への就職支援

外国人留学生対象の就職説明会を実施。

求人情報やイベント案内を提供。

外国人留学生の就職相談窓口の明確化などの就職支援を強化。

### 8. Web サイトにおける情報提供

本学基本情報の英語版を掲載。

国際交流イベントの発信。

## **(5) 専門性と総合性の融合を目指した教育改革**

美術学部は八王子キャンパスに8学科5専攻2コース、上野毛キャンパスに2学科2コースが設置され、それぞれが高い専門性を持った教育研究を進める一方で、各学科が個別カリキュラムで貫かれておりやや総合性に欠けることが懸念される。

これを補う視点から、本学が目指す専門的職業人や独立した作家の育成に不可欠なプログラムとして、全学年・全学科の学生が履修できる課題解決型のPBL科目（Project Based Learning）や企業及び自治体との産学官共同研究、著名な企業人や作家を招く特別講義など全学科対象のオープン科目を導入し、学生が授業を通じて触発し合うことにより、柔軟な考え方や新たな創造を生み出す取り組みを継続的に実施する。

また、共通教育においては総合的な教養に配慮して芸術を目指すものの基盤を重視した科目を配置する。

## **(6) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備**

本学の校地及び校舎面積は国が定める大学設置基準を充足しており、上野毛キャンパスと八王子キャンパスにおいて、それぞれの立地の特性を活かした教育研究活動が行なわれている。

特に教育研究領域に対応する専門施設に加え、共同施設（図書館、美術館、メディアセンター、アートテーク、セミナーハウス奈良飛鳥寮・山中純林苑、アキバタマビ21等）も充実しており所属学科領域外のことに触れて学ぶことができる十分な環境が整備されているが、更なる充実を図るための新規計画が進行中である。

### **1. 上野毛キャンパス整備**

- ①キャンパスに隣接する道路（都道駒沢通り）拡幅計画にかかる対応を進める
- ②上野毛キャンパスの大規模整備計画の策定を進める  
2020年度着工～2026年度竣工を目指す（今年度は実施設計の策定）

### **2. 八王子キャンパス整備**

- ①過年度に実施された施設設備の修繕や改修工事履歴に基づく、長期修繕計画を策定し効果的な施設設備の改修工事を実施する
- ②今後の八王子キャンパス整備にかかる新規プランの検討
- ③八王子キャンパス南側遊歩道隣接所有地における学生寮建築計画の推進  
2019年9月着工～2020年11月竣工予定

#### **【学生寮建築のコンセプト】**

- a. 寮長・寮母が24時間常駐し入居者対応
- b. RA（レジデント・アシスタント）制度による→入居者ケア

- c. 入居者へ安全・快適な居室とバランス良い食事の提供
- d. 経済的負担の軽減
- e. 多様性あふれる学友との交流を通じた成長
- f. 留学生と共生することで身につく国際化の推進

#### 【学生寮の概要】

RC造 地上5階建 施工床面積7,600㎡

全190室<個室176室、留学生10室、バリアフリー室、管理人室他>

### (7) 管理運営の強化

#### 1. 人事管理・労務管理

- ①新規導入の人事システムの円滑な移行運営を実行する
- ②人事システムとの連携による勤怠管理システムを導入する
- ③人事・サービス関係規程の課題整理と改善を実施する
- ④政府が進める「働き方改革関連法案」にかかる学内規程の改正を進める

#### 2. 人材育成 ー職員の資質・能力向上ー

- ①SD推進による職員力・組織力の強化と高度化を図る  
 <育成型人事考課制度、目標管理制度、学内外研修受講制度他>
- ②キャリアプランシートに基づく人材育成計画の見直し

#### 3. 法改正及び危機管理対応

- ①2015年12月より法制化されたストレスチェックの利用率向上を目指す
- ②2016年1月より施行されたマイナンバー制度の円滑な運用に努める
- ③2019年4月から順次施行される働き方改革関連法<労働基準法、労働安全衛生法、雇用対策法、短時間労働者の雇用管理の改善等に関する法律等>の順守
- ④災害発生時の地域自治体との協力・連携による安全管理体制を維持する

#### 4. 財政基盤の強化

- ①2019年10月からの消費税増税に対応すべく財政基盤強化のため、効率的な予算執行と無駄を省く経費削減を進め安定した教育研究資金の確保に努める
- ②年間を通じた寄付金募集や積極的な補助金申請・獲得を実行する
- ③管理経費支出は前年度実績の▲3%を目標に削減させる
- ④2034年までの今後15年間に亘る18歳人口減少等の影響を取り込んだ財務シミュレーションを作成し理事者による経営判断資料とする
- ⑤私立大学等改革総合支援事業助成の獲得に向けた取り組みを推進する

### 3. 2019（平成31）年度事務部門の計画（骨子）

事務部門における主な計画の骨子は以下の通りである。

#### (1) 教育・研究運営面の推進計画

##### ◆教務部

##### 【教務課】

- ①教育課程、教育内容、教育方法等の改善に向けた取り組み
  - ・教育課程の体系化、授業運営の実質化および改善、単位制度の実質化、カリキュラム改革への取り組み、教育方法の改善、厳格な成績評価への取り組み
  - ・多様化する学生への対応、職員の職能開発（SD）、高大連携（小中も含む）の推進、大学間の連携促進
- ②大学基準協会大学評価（2015年度申請）における指摘課題への対応  
＜2019年7月改善報告書提出＞
  - 《教員・教員組織》
    - ・昇格及び大学院指導資格の基準を明示する
    - ・授業改善の他、教員の資質向上のためのFD活動を実施する
  - 《教育内容・方法・成果》
    - ・美術研究科の教育課程編成や実施方針は課程ごとに定める
    - ・美術学部の教育課程の編成、実施方針はWebサイトにより広く社会に向けて公表する
  - 《内部質保証》
    - ・自己点検・評価を定期的に実施する
    - ・内部質保証についての恒常的な組織体制を機能させる
- ③三つのポリシーに基づくPDCAサイクルの推進  
全学的に整備された三つのポリシー＜「卒業認定に関する方針」（ディプロマ・ポリシー）「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラム・ポリシー）「入学者の受入に関する方針」（アドミッション・ポリシー）＞に基づく立案、大学改革の実施、取り組みの評価、改善を行うPDCAサイクルを推進する
- ④教職課程の再課程申請（2018年3月）に伴う2019年度からの新課程に向けた準備と着実な履行

##### 【入試課】

- ①一般、推薦、特別、大学院入学試験のWeb出願・合否システムの検証と改善
  - ・入試変更点のスムーズな対応
  - ・新入試システムの構築と実施
  - ・学生募集要項の構成の見直し
- ②外国人留学生の対応について

- ・大学院入試、研究生選考、大学院事前面談の見直し
- ・留学生の質の向上を目指すため日本語能力を含めた出願資格の厳格化を図る
- ③研究生選考の見直し、制度の確認
  - ・研究生制度の定義再確認
- ④大学入学共通テスト（新テスト）導入、高大接続改革について
  - ・導入に向けての調整及び公表
- ⑤オープンキャンパスの運営
  - ・予約制システムの導入による来場者情報の正確性を高める
  - ・運営経費を含めた運営方法の検討

### 【国際交流センター】

- ①海外協定校の拡充及び海外大学との交流促進（共同授業・ワークショップ）
- ②国際協働教育プロジェクト「Pacific Rim 14」（アメリカステージ）実施
- ③国際交流プロジェクト「Connecting Wool」（共同ワークショップ・ワークプレースメント）実施
- ④国際交流に係る外部資金の獲得・活用（事業経費軽減のため外部補助金獲得）
- ⑤外国人留学生在籍管理（在留資格の期限管理、在留カード[写]保管、出席不足・成績不良学生へのケア）
- ⑥本学 Web サイトにおける情報提供（基本情報英語版、交流イベント発信）

### 【研究支援課】

- ①研究費に関するルール・事例集の整備
  - ・科研費学内ルール改訂版作成
  - ・外部資金に係る運用基準及び研究費使用事例集の更新
- ②公的研究費の管理・監査のガイドラインに基づく体制整備の促進
  - ・不正防止のための体制整備
  - ・教員と学生への研究倫理教育
  - ・コンプライアンス研修会、研究倫理研修会の開催
- ③学内研究活動の活性化と情報公開促進
  - ・研究成果の発信強化（成果報告会・ひらめき☆ときめきサイエンス・機関リポジトリ活用）
  - ・産学共同研究受託の増加
  - ・研究紀要の発行

## ◆学生部

---

### 【学生課】

- ①奨学金等に関する見直し

- ・日本学生支援機構奨学金の業務体制見直しを図る
  - ・本学奨学金・授業料減免制度の検討と実施対応に向け整備をする
- ②学生満足度の向上
- ・2018年度「意見箱」へ寄せられた意見に対する取りまとめを行う
  - ・学生住環境に配慮しアパート委託業者との協力を図る
  - ・2020年11月竣工予定の新設学生寮の運営準備を進める
- ③学生支援及び支援業務に関する見直し
- ・学生生活調査分析を受けた課題点の整理と学生支援方針の策定する
  - ・学生支援委員会にて各学生支援策をPDCAサイクルにより検証実施する
  - ・受動喫煙防止対策を関連部署と連携して実施する
- ④多様化する学生に対する支援
- ・障がいを持つ学生の関係者との情報共有と合理的配慮に基づく支援
  - ・欠席過多等の要ケア学生に対し研究室との連携による早期発見と支援
  - ・退学者の状況分析を行い課題点の情報共有を図る
  - ・学生相談室における運営の充実化を図る
- ⑤上野毛キャンパス学生への課外活動等支援
- ・学生との懇談会を実施し課外活動に関するニーズを把握し改善する
  - ・学生の交流をサポートしコミュニケーションスペースの拡充を検討する
  - ・地域連携によるボランティア活動やコラボレーション情報の提供を図る

### 【キャリアセンター】

- ①進路・就職支援対策の推進強化
- ・就職内定率（就職者／就職希望者）を85%以上とする
  - ・進路（進学、留学等）ガイダンスを実施
- ②低学年からの進路・就職に対する意識向上
- ・低学年向けガイダンス、講座を強化
  - ・OB・OGによる講演会を実施
- ③教職員の連携強化
- ・キャリアセンター内、各学科担当職員と各学科就職担当教員との定期的な情報交換を実施
  - ・就職指導連絡会の実施ならびに担当助手への協力体制強化
- ④留学生及び配慮を要する学生への進路・就職支援
- ・国際交流センターとの連携、留学生向けガイダンスを開催
  - ・学生課・学生相談室との連携、課内での情報共有を強化
- ⑤ガイダンス・学内企業説明会参加率の向上
- ・ガイダンス内容の充実、新規先の導入を図る
  - ・学内説明会運営方法などを見直す
  - ・学生への告知方法を見直す

## ◆附属図書館

---

- ①「学生のための図書館」サービスの充実と学内利用者の満足度向上
  - ・図書館の利用環境の向上
  - ・図書館の所蔵資料を活用した展示の実施
  - ・専門図書館に相応しい蔵書の構築
- ②大学からの情報発信への貢献
  - ・「言語と美術コレクション」の構築と展開
  - ・コレクションの収集・整理、公開（展示）
- ③他部署との連携
  - ・各研究室の発行物の収集・整理
  - ・大学史資料の整理・目録作成とデータ化サポート
  - ・アーカイヴ資料の構築と情報共有
- ④開かれた図書館を目指して
  - ・図書館活動の情報公開と利用者の意見を反映する仕組み作り（Web強化）
  - ・アーケードギャラリーの活用促進（利用規定見直し、設備改善他）
  - ・八王子図書館の見学対応の体制構築（見学者用パンフレット作成他）
- ⑤運営・管理のレベルアップ
  - ・業務委託スタッフのレベルアップと両館の業務統一化、組織理解の向上
  - ・他部署との連携による図書館システム（LIMEDIO）更新
  - ・幅広い知識と見識を持った人材の育成

## ◆附属美術館

---

- ①展覧会開催（年間6本）
  - (a)「薮野 健 時空散歩 江戸東京、そして東北」
  - (b)「古布の世界ー坂田和實蒐集の粹ー」<仮称>
  - (c)「エターナル・アフリカ\*森と都市と革命ーアミルカル・カブラルの革命思想とジョージ・リランガの芸術ー」<仮称>
  - (d)「TAMABI METAL WORKSー野口裕史と教え子たちー」<仮称>
  - (e)「バウハウス 100年 ジョゼフ・アルバーズの造形と思考」
  - (f)「多摩美術大学博士課程展 2020」
- ②博物館実習生受入れ
  - ・本学学生及び他大学からの博物館実習希望者約70名
- ③美術館運営委員会の開催
  - ・年2回（6月、10月）
- ④施設設備維持管理、受変電設備、防火シャッター更新



## ◆附属メディアセンター

---

- ①研究センター：データベースを使った研究活動支援
  - ・研究成果アーカイブの作成支援（東京国際ミニプリントトリエンナーレ）
- ②情報センター：学内ネットワーク環境の整備
  - ・ネットワーク機器更新対応
  - ・上野毛キャンパス無線 LAN サービス設置
  - ・コンピュータスタジオ内 PC 更新
- ③映像センター：制作環境の強化
  - ・施設利用学生の制作意欲を刺激する機材構成の充実
  - ・学生のクリエイターとしてのキャリア構築をサポート
  - ・3DCG 機器とソフトを更新し授業内外の対応強化
- ④写真センター：暗室・撮影スタジオ施設、写真機材の有効活用を推進
  - ・写真制作に必要な知識・技術向上の講習会開催
  - ・貸出機材の更新
  - ・デジタルプリント制作支援
- ⑤工作センター：安全衛生診断に基づく安全第一の運営
  - ・各研究室と施設利用時間の調整と連携による利用者の安全確保
  - ・予約やスタッフの立ち合いが必要な工作機械の使用ルール順守
  - ・3D 切削機の稼働を高めるため制作サンプルや講習会開催の充実
- ⑥CMTEL：展示収蔵品の収集・充実
  - ・学生の制作活動に係る実践的サポートの実施（相談窓口／問い合わせ）
  - ・全学生対象のワークショップ開催、提供サンプルの充実
  - ・オープンキャンパスや学校見学者へ向けたワークショップ開催
- ⑦上野毛スタジオ：貸出し機材整備・技術講習会の開催
  - ・写真、撮影、録音、映像の各スタジオ利用や制作について講習会を開催
- ⑧事務室：セミナーとワークショップの開催
  - ・Adobe CC セミナー、モデリングソフトのワークショップ開催

## ◆附属アートアーカイブセンター（新組織）

---

### 1. 附属アートアーカイブセンターの運営体制構築

- ①アートアーカイブセンターの基本方針・中長期計画の策定
- ②アーカイブ関連業務研修への参加

### 2. 事業推進に向けた取り組み

- ①各アーカイブ資料の保管と管理及び整理
  - (a)もの派アーカイブ (b) 大学史資料 (c) 瀧口修造文庫・北園克衛文庫
  - (d) 今井兼次資料 (e) 文様研究資料 (f) 横山操・加山又造アーカイブ
  - (g) 秋山邦晴文庫 (h) DNP ポスターコレクション (i) 佐藤晃一アーカイブ

- (j) 勝見勝資料 (k) 三上晴子アーカイヴ(1) 竹尾ポスターコレクション 他
- ② アートアーカイヴセンターの情報発信
  - (1) 事業概要 (2) アーカイヴ紹介 (3) 学内サイト構築 (4) 公開サイト構築
- ③ 本学ブランディング事業としての推進
  - (1) ブランディング事業実施に向けた企画・運営 (2) 事業予算管理
  - (3) メディアネットワーク構想の実現

#### ◆生涯学習センター

---

- ① 本学の持つ潜在的な力・リソースを掘り起こし、社会へアピールする場としての生涯学習事業の企画立案
- ② こども講座における新たな連携プロジェクトの発掘
- ③ 上野毛・八王子キャンパスそれぞれの特色を生かした旗艦講座の検討
  - ・上野毛 連続講演の新規シリーズ『〇〇世紀の芸術家列伝』の常軌化
  - ・八王子 初の連続講演『世界の美術館—写真+映像+お話で美術館を巡る』
- ④ Web 広報の強化及び他の広報媒体との有機的関連付けによる活動の周知と事業の更なる活性化を図る

#### ◆芸術人類学研究所 (IAA)

---

##### 1. 研究プロジェクトと連動した大学内外における連携活動の推進と教育活動

- ① 学内連携と本学学生への研究成果還元
  - ・学内各学科、美術館、生涯学習センターとの連携
  - ・「土地と力」プロジェクト・学内シンポジウム開催（全学生聴講開放 11 月）  
学生へ研究所主催の研究会の開放
  - ・本学アートテーク展示企画（6 月～7 月）＊ 2 週間程度  
：「渦巻の大世界（マクロコスモス）」展＜仮称＞
- ② 社会連携
  - ・学外研究機関、自治体、出版社等との共同プロジェクト
  - ・「土地と力」プロジェクト等研究成果の書籍化（2019 年度出版予定）  
：『芸術人類学研究所とは何か』＜仮称＞
- ③ 地域連携
  - ・各種ワークショップ、里山（植樹）プロジェクト

##### 2. 研究会・プロジェクトの推進とプロジェクト間の連携

- ① 「土地と力」プロジェクト
- ② ユーロ＝アジアをつらぬく美の文明史プロジェクト
- ③ 野外をゆく詩学プロジェクト

- ④贈与と祝祭の哲学プロジェクト
- ⑤来たるべき美術プロジェクト
- ⑥縄れのデザインプロジェクト

## (2) 管理運営面の推進計画

### ◆総合企画部

---

#### 【企画課】

- ①法人運営に関する市場調査ならびに諸統計などの収集・分析
  - ・今後の法人運営に係る学内外（受験生、学生、大学、高校、予備校、企業、自治体等）の情報の収集と分析
  - ・IR活動の強化
- ②法人運営に関する企画と提案
  - ・①に基づく、今後の学校経営に関する取り組みプランの作成と提案

#### 【広報課】

- ①学生募集に関する企画と提案
  - ・志願者数の確保とともに質の高い学生獲得に向けた選抜プランの作成と提案
- ②広報メディアのクオリティアップ
  - ・志願者獲得に向け「大学案内」「TAMABI NEWS」「サブパンフ」等の編集内容の強化並びにWebサイトの再構築
  - ・対象者に合わせたSNSやアプリとの組み合わせを検討
  - ・制作目的の細分化に伴い、新たな制作物を発行
- ③大学広報
  - ・大学ブランド価値向上に向けた取り組みプランの作成と提案
  - ・受験生に向けた広報プランの作成と提案
  - ・パブリシティ獲得に向けた情報発信の強化
  - ・大学史の編纂
- ④公的機関・社会連携強化
  - ・全国高等学校美術工芸研究大会、全国高等学校文化連盟、全国美術高等学校協議会、全国高等学校演劇協議会、大学コンソーシアム八王子、相模原・町田大学地域コンソーシアムなどとの連携協働を通じて様々な組織や地域と芸術文化の振興、事業展開による芸術実践活動を推進する。

## ◆総務部

---

### 【総務課】

#### 1. 法人運営環境の整備

- ①役員変更に伴う各種届出業務の速やかな実施
- ②理事会決定事項に対する実施サポート
- ③法人運営に係る関係規程の整備
- ④電子稟議・決済システムの検討
- ⑤事務組織改編にかかる業務分担見直し
- ⑥労務環境の整備
  - ・働き方改革関連法の対応
  - ・ワークライフバランスの推進
  - ・職員勤怠システムの導入
- ⑦人材活用
  - ・新卒・若年層の採用
  - ・研修制度の見直し・活用
  - ・専門職制度の導入検討

#### 2. 上野毛キャンパス

- ①上野毛キャンパス整備計画の始動
  - ・駒沢通り拡幅にかかる校地補償に係る世田谷区との折衝
  - ・上野毛キャンパス整備に係る実施設計策定に向けたサポート

### 【八王子総務課】

#### 3. 八王子キャンパス

- ①八王子キャンパス整備計画
  - ・キャンパス南側隣接地へ学生寮着工（RC造、地上5階建）
  - ・GHP・EHP 空調更新工事（メディアセンター、デザイン棟）
  - ・校内各所トイレ洋式化へ改修
  - ・外壁補修工事（絵画北棟、メディアセンター）
  - ・次年度建物修繕計画策定

#### 4. 管理運営計画

- ①各建物の長期修繕計画推進（年数別の修繕計画、改修履歴データ化）
- ②災害備蓄品の更新

### 【経理課】

- ①税務申告のシステム化
- ②資産運用の拡充

- ・運用基準見直し、ポートフォリオによるリスク回避と安全運用
- ③寄付金収入の拡充
- ④財務シミュレーションと資金計画の策定
- ⑤クラウドファンディング導入の提案

**【情報推進課】**

- ①学内情報化に関する管理運営業務の推進

以 上